# 令和３年度

# 社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会事業報告書

令和３年度は、第２期矢巾町地域福祉活動計画に基づき、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる町」を目指して、行政や専門機関、地域住民や福祉団体、ボランティア等、地域に関わるすべての人々が協働してお互いに支え合う活動を強化し、矢巾町が目指す「やさしさと思いやりに満ちたまちづくり」に向けて活動を展開した。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業や失業により収入が減少し、生活が困窮する世帯の生活相談及び支援として、一時的な生計維持のための緊急小口資金特例貸付、生活の立て直しのための総合支援資金貸付、たすけあい金庫などの貸付事業の他、食料品やサニタリー用品の寄付を町民に呼びかけ、必要な人へ届けるフードドライブ＆サニタリードライブ事業、子育て世帯や一人暮らしの大学生等に無料で食料等を配布するフードパントリー事業を行い、住民と一体となってコロナ禍の町民の暮らしを支える活動を展開した。生活困窮者自立支援事業（岩手県社会福祉協議会）と連携し、困窮者支援に取り組んだ。

また、町内の１医療法人、８社会福祉法人が協働で公益的な取組を行う「やはば生活支援ネットワーク事業推進協議会（法人ネットワーク）」では、月１回のおつかいサービスの他、生活困窮者への生活支援、中間的就労体験事業など、組織的な活動を積極的に展開した。

令和３年度は、町が実施する重層的支援体制整備事業の３つの柱である包括的相談支援事業、参加支援事業、地域づくり事業を共に展開し、行政や関係機関と綿密な連携を深め、社会福祉協議会の機能を発揮して住民のあらゆる困りごとに対応した。特にもコロナ禍で外出を自粛するなど地域活動が減少する中、居場所や交流の場を求める住民のニーズがより明確化し、サロン活動やコミュニティ食堂、ボランティア活動が安全に展開されるよう、感染対策を徹底した中での活動を推進し、地域住民やボランティアなどネットワークによる支え合う地域づくりに力を入れて活動を行った。

近年、自然災害が多発する中、災害ボランティアセンターの設置・運営を円滑に実施するため、11 月 17 日には矢巾町と「矢巾町災害ボランティアセンターの設置・運営等に係る協定」、12 月 15 日には盛岡青年会議所と「災害時等の連携に関する協定」を締結し、迅速かつ効果的に被災者を支援できる協働体制を構築することができた。

令和２年度は中止としたふれあい広場については、コロナ禍にあることを考慮し、ステージイベントや飲食を中心とした出店等従来の開催形式を変えて、障がいのある方、高齢の方、子育て世代の方、誰もが楽しむことができる「矢巾町ふれあい広場～バリアフリー映画会～」に取り組んだ。多くのボランティアの力を結集して開催し、誰もが地域における役割を担いながら、共に学び共に生きる地域づくりにむけて新たな活動を展開した。

## １　法人の運営

### （１）理事会の開催状況

| 開催年月日 | 出席者数 | 議　　題 |
|---|---|---|
| 第１回理事会<br>令和３年<br>５月 21 日 | 理事 12 名<br>監事３名 | 令和２年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会事業報告の承認について<br>令和２年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会収入支出決算の承認について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会理事候補者の推薦について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会監事候補者の推薦について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会評議員候補者の推薦について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会評議員選任・解任委員会の招集について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会第１回評議員会の招集について |
| 第２回理事会<br>令和３年<br>６月９日 | 理事 12 名<br>監事３名 | 社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会会長、副会長の選任について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会評議員選任・解任委員会委員の選任について |
| 第３回理事会<br>令和３年<br>12 月６日 | 理事 13 名<br>監事３名 | 令和３年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会収入支出補正予算第１号（案）について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会経理規程の一部改正について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会第２回評議員会の招集について |
| 第４回理事会<br>令和４年３月 16 日 | 理事 13 名<br>監事３名 | 令和３年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会収入支出補正予算第２号（案）について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会役員賠償責任保険契約について<br>令和４年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会事業計画（案）について<br>令和４年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会収入支出予算（案）について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会第３回評議員会の招集について |

### （２）評議員会の開催状況

| 開催年月日 | 出席者数 | 議　　題 |
|---|---|---|
| 第１回評議員会<br>令和３年<br>６月９日 | 評議員<br>18 名<br>理事３名<br>監事３名 | 令和２年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会事業報告の承認について<br>令和２度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会収入支出決算の承認について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会理事の選任について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会監事の選任について |
| 第２回評議員会<br>令和３年<br>12 月 15 日 | 評議員<br>18 名<br>理事３名<br>監事１名 | 令和３年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会収入支出補正予算第１号（案）について<br>社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会経理規程の一部改正について |

| | | |
|---|---|---|
| 第３回評議員会<br>令和４年<br>３月 24 日 | 評議員<br>20 名<br>理事３名<br>監事１名 | 令和３年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会収入支出補正予算第２号（案）について<br>令和４年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会事業計画（案）について<br>令和４年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会収入支出予算（案）について |

## （３）監事会の開催状況

| 開催年月日 | 出席者数 | 議　　題 |
|---|---|---|
| 第１回監査会<br>令和３年<br>５月 13 日 | 監事３名 | 1　令和２年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会事業報告について<br>①社会福祉協議会　②児童館<br>③居宅介護支援事業所 ④生きがい対応型デイサービス<br>2 令和２年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会収入支出決算書類について<br>会計区分<br>①社会福祉協議会事業<br>②共同募金事業<br>③たすけあい金庫事業<br>④居宅介護事業<br>⑤児童館事業<br>3　令和２年度寄付者の状況<br>4　令和２年度福祉基金積立金の状況<br>5　社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会預金残高証明書（令和 3 年 3 月 31 日現在）<br>6　社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会運営点検表 |
| 第２回監査会<br>令和３年<br>７月 28 日 | 監事３名 | 1　令和３年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会仕訳伝票、月次決算書、賃借対照表、予算執行状況について<br>①社会福祉協議会事業　②共同募金事業　③たすけあい金庫事業<br>④居宅介護事業　⑤児童館事業 |
| 第３回監査会<br>令和３年<br>10 月 21 日 | 監事３名 | 1　令和 3 年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会仕訳伝票、月次決算書、貸借対照表、予算執行状況について<br>①社会福祉協議会事業　②共同募金事業　③たすけあい金庫事業<br>④居宅介護事業　⑤児童館事業 |
| 第４回監査会<br>令和４年<br>１月 26 日 | 監事３名 | 1　令和 3 年度社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会仕訳伝票、月次決算書、貸借対照表、予算執行状況について<br>①社会福祉協議会事業　②共同募金事業　③たすけあい金庫事業<br>④居宅介護事業　⑤児童館事業 |

## （４）令和３年度財政援助団体等監査（令和２年度分）

期　日　　令和３年 11 月 11 日

場　所　　役場２階 2-2 会議室

出席者　　矢巾町監査委員　　長谷川和男委員

　　矢巾町監査委員事務局　野中伸悦局長、千葉欣江係長

　　田鎖範夫会計年度任用職員

出席職員　佐藤由子事務局長、小松晃事務局次長
【監査対象】矢巾町社会福祉協議会運営費補助金（交付金額　425,000 円）
【監査内容】補助対象事業に係る出納その他事務の執行に関すること

## （５）会長・副会長会議

| 開催年月日 | 議　　題 |
|---|---|
| 令和 3 年 9 月 17 日 | 社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会下半期事業について<br>社会福祉協議会会長表彰式について<br>子ども川柳選考ついて<br>社協会費、赤い羽根共同募金について |
| 令和 3 年 10 月 25 日 | 社会福祉協議会会長表彰式について<br>金婚式について<br>バリアフリー映画会について<br>煙山キッズクラブについて |

## （６）評議員選任・解任委員会の開催状況

| 開催年月日 | 出席者数 | 議　　題 |
|---|---|---|
| 第 1 回評議員選任・解任委員会<br>令和 3 年<br>6 月 4 日 | 委員 5 名 | 社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会評議員（21 名）の選任について |

## （７）苦情解決への取組状況

①苦情解決委員会の開催
期　日　　令和 3 年 7 月 12 日
場　所　　役場 2 階 2-4 会議室
出席委員　北田利子委員　　星川範男委員　　久慈妙子委員
出席職員　佐藤由子事務局長
【苦情受付状況について】
令和 3 年 2 月～令和 3 年 7 月委員会開催まで
受付苦情件数　4 件　(社会福祉協議会 2 件、児童館 2 件)
事故報告件数　0 件

## （８）財源確保に関すること

①社会福祉協議会会費
【世帯会員の納入結果】
令和 3 年 5 月～行政区長の協力を得て会員会費納入の運動を行った。

| | |
|---|---|
| 41 行政区、10,790 世帯（4 月 1 日現在）　6,282,000 円　（前年度比 123,000 円減） | |
| パンフレット　全戸配布 | |

【法人賛助会費の納入結果】

令和 3 年 6 月～賛助会員の募集と会費納入運動を行った。

| | |
|---|---|
| 町内外事業所 191 社（令和元年 261 社）13 施設（令和元年 13 施設）579,000 円<br>（令和元年 716,500 円） | |
| パンフレット配布　協力事業所名を「やはばのふくし」に掲載 | |

※令和 2 年度は、納入時期を見直したため、実績なし

②令和 3 年 10 月全国一斉「赤い羽根共同募金」運動を展開

パンフレット「共同募金の行方」全戸配布

【令和 3 年度赤い羽根共同募金運動】

目　標　額　　5,000,000 円

実　績　額　　3,865,521 円

矢巾町の目標達成率　77.3%

| | 募金額（円） | 協力機関等 |
|---|---|---|
| 戸別募金 | 3,175,500 | 各行政区 |
| 法人募金 | 548,900 | 町内事業所 |
| 街頭募金 | 0 | |
| 学校募金 | 52,848 | 町内保育園、こども園、小中学校、高校、大学、支援学校 |
| 職域募金 | 13,476 | 矢巾町役場等 |
| チャリテイー募金 | 21,054 | 老人クラブゲートボール大会、バリアフリー映画会 |
| その他の募金 | 53,743 | 町内募金箱、自販機、個人募金 |
| 合計 | 3,865,521 | |

③令和 3 年度歳末たすけあい共同募金運動（令和 3 年 10 月 1 日～12 月 31 日）

目　標　額　　2,500,000 円

実　績　額　　2,572,200 円

矢巾町の目標達成率　102.9%

| | 募金額（円） | 協力機関等 |
|---|---|---|
| 戸別募金 | 2,518,700 | 各行政区 |

| | | |
|---|---|---|
| 法　人　寄　付　金 | 0 | |
| 催　事　寄　付　金 | 0 | |
| 団体・個人寄付金 | 53,500 | ともしび会（民生委員 OB 会）、矢巾中央幼稚園父母会、連合婦人会他 |
| 合　　計 | 2,572,200 | |

④社会福祉協議会福祉基金

財政基盤を確立し、安定した財源の確保による地域福祉活動の展開をめざして、福祉基金の充実を図った。

【基金管理状況】

| | | |
|---|---|---|
| 令和 3 年度の新規積立金 | 2,089,606 円 | 寄付 19 件 |
| 令和 3 年度取崩金 | 23,000,000 円 | |
| 現在の福祉基金（R4.3.31） | 74,319,402 円 | |

## （９）役職員研修・委員会等の参加状況

①県央地区社会福祉協議会連絡協議会総会

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和 3 年 4 月 15 日　　盛岡市総合福祉センター |
| 出　席　者 | 会長、吉岡副会長、山下副会長 |
| 内　　容 | 令和 2 年度事業報告・決算について、令和 3 年度事業計画・予算について |

②2020 東京オリンピック・パラリンピック矢巾町交流推進実行委員会総会

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 設立総会　令和 3 年 5 月 24 日　　矢巾町公民館<br>解散総会　令和 3 年 12 月 23 日　矢巾町公民館 |
| 出　席　者 | 会長 |
| 内　　容 | 2020 東京オリンピック・パラリンピック矢巾町交流推進実行委員会会則について、委員及び役員等の選任について、令和 2 年度事業計画・予算について、事務局規程について<br>事業報告、決算について |

③岩手県ボランティア団体連絡協議会総会

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和 3 年 6 月 25 日　ふれあいランド岩手 |
| 出　席　者 | 吉岡副会長 |
| 内　　容 | 令和 3 年度事業計画について、役員改選について他 |

④令和 3 年度県央地区社協連絡協議会事務局長会議

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和 3 年 6 月 25 日　　盛岡市総合福祉センター |

| | |
|---|---|
| 出　席　者 | 事務局長 |
| 内　　容 | ①職員研修について<br>②先進地研修について<br>③ボランティア活動実践研究会について<br>④県央地区社協会則の改正について |

⑤令和３年度市町村社会福祉協議会事務局長・地域福祉担当課長会議

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和３年７月 19 日　　ふれあいランド岩手 |
| 出　席　者 | 事務局長 |
| 内　　容 | 【説明】<br>「地域福祉施策の動向と社会福祉協議会の役割」<br>岩手県社会福祉協議会地域福祉企画部長　斎藤　穣　氏<br>【実践報告 1】<br>遠野市社会福祉協議会が取り組む「福祉でとおのづくり」～「重層的支援整備事業」を活用した取組み<br>遠野市社会福祉協議会事務局長　高橋　洋子　氏<br>【講義】<br>「社会福祉法人の計算書類等の仕組みと財務分析のポイント」<br>昆税理士法人代表社員　所長　税理士　丹代　一志　氏<br>【実践報告 2】<br>「新型コロナウイルス感染症発生時組織対応」<br>宮古市社会福祉協議会常務理事・事務局長　柳澤　良文　氏 |

⑥令和３年度精神保健福祉基礎研修　　（オンライン研修）

| | |
|---|---|
| 期　　日 | 令和３年９月 10 日 |
| 出　席　者 | 間瀬主事（精神保健福祉士） |

⑦第 74 回岩手県社会福祉大会

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和３年 11 月２日　　岩手県民会館 |
| 出　席　者 | 千葉 |
| 内　　容 | ○新型コロナウイルス感染症対策のため表彰のみ<br>ボランティア団体　　ちょボラの会 |

⑧市町村社会福祉協議会会長懇談会

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和３年 11 月 16 日　ホテルメトロポリタン |
| 出　席　者 | 会長、事務局長 |
| 内　　容 | 【基調講演】<br>「福祉政策の動向を踏まえた今後の社協ビジョン」<br>全国社会福祉協議会地域福祉部　　水谷　詩帆　氏<br>【懇談会】<br>「地域の福祉課題と今後の社協の経営ビジョン」<br>＜助言＞全国社会福祉協議会　水谷　詩帆　氏 |

⑨令和３年度市町村共同募金委員会担当職員研修会

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和３年 11 月 30 日　ふれあいランド岩手 |
| 出　席　者 | 間瀬主事 |

| | |
|---|---|
| 内　　容 | 【報告】<br>北海道・東北ブロック共同募金会業務主幹会議　中央情勢報告<br>岩手県共同募金会　事務局次長　西川　義之　氏<br>【説明】<br>寄付金付き商品の進め方<br>事務処理上の注意点<br>岩手県共同募金会会計システムの移行<br>【グループ情報交換】<br>コロナ禍における募金運動<br>寄付金付き商品の取組<br>コロナ禍における助成事業の実施状況 |

⑩令和３年度地域福祉活動コーディネーター（CSW）養成研修

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 〈前期〉令和３年 12 月 16 日～17 日　　岩手県立大学 |
| 出　席　者 | 佐々木主事 |
| 内　　容 | 【講義】<br>「重層的支援体制整備事業の概要と地域づくり事業」<br>岩手県立大学社会福祉学部　齋藤　昭彦　氏<br>【取組発表】<br>「遠野市における重層的支援体制整備事業への取組と地域づくり」<br>遠野市健康福祉部福祉課　副主幹　菊池　錠二　氏<br>遠野市社会福祉協議会　事務局長　高橋　洋子　氏<br>【個人ワーク】<br>「重層的支援体制整備事業及び地域づくり実践に向けた課題分析」<br>岩手県立大学社会福祉学部　齋藤　昭彦　氏<br>【講義】<br>「住民を巻き込んだ地域福祉事業の展開」<br>岩手県立大学社会福祉学部　准教授　佐藤　哲郎　氏<br>【グループワーク】<br>「重層的支援体制整備及び地域づくり実践に向けた課題分析」<br>岩手県立大学社会福祉学部　准教授　佐藤　哲郎　氏 |

⑪令和３年度地域福祉活動コーディネーター（CSW）養成研修　（オンライン研修）

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 〈後期〉令和４年２月 14 日～15 日 |
| 出　席　者 | 間瀬主事 |
| 内　　容 | 【講義】<br>「支え合いマップの意義と活用」<br>岩手県立大学社会福祉学部　准教授　菅野　道生　氏<br>【取組発表】<br>「支え合いマップを用いた地域づくり実践」<br>宮古市社会福祉協議川井支所センター係長　　引屋敷　千春　氏<br>滝沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター　山本　美喜子　氏<br>一戸市社会福祉協議会主任　　小野寺　幸葉　氏<br>【講義】<br>「多機関で取り組む地域福祉と社会福祉協議会への期待」<br>NPO 法人カシオペア権利擁護支援センター　所長　小野寺　幸司　氏<br>【講義】<br>「組織としての支え合いマップの活用と推進」<br>釜石市社会福祉協議会　地域福祉課長　菊池　亮　氏 |

| | |
|---|---|
| | 【グループワーク】「支え合いマップから見えるもの～ご近所内の住民流をさがせ」 |

⑫パラリンピアン髙橋幸平選手を支援する会

設立総会

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和４年１月 29 日　　矢巾町公民館 |
| 出　席　者 | 会長、佐藤監事、事務局長 |
| 内　　容 | 支援する会会則の改正について、役員の選任について、令和３年度事業計画について、予算の決定について |

解散総会

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和４年３月 27 日　　矢巾町公民館 |
| 出　席　者 | 会長、佐藤監事 |
| 内　　容 | 令和３年度事業報告並びに収支決算の承認について、パラリンピアン髙橋幸平選手を支援する会の解散について |

⑬ボランティアの事前登録制度と ICT 活用についての研修会　（オンライン研修）

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和４年１月 16 日 |
| 出　席　者 | 次長、佐々木主事 |
| 内　　容 | 【事例紹介①】<br>秋田県仙北市社会福祉協議会　地域福祉課　武蔵　弘康　氏<br>【事例紹介②】<br>ICT を活用した事例<br>合同会社 HUGKUMI　長井　一浩　氏　　小島　寛　氏<br>【事例紹介③】<br>災害ボランティアセンター運営時の困難事例<br>ICT による解決方法<br>合同会社 HUGKUMI　長井　一浩　氏　　小島　寛　氏 |

⑭重層的支援体制整備事業ブロック別研修　（オンライン研修）

| | |
|---|---|
| 期　　日 | 令和４年３月１日 |
| 出　席　者 | 佐々木主事 |
| 内　　容 | 【事例発表】<br>重層事業実施に向けた盛岡市の取組内容<br>盛岡市保健福祉部地域福祉課　主任　福士　康太　氏<br>矢巾町重層的支援体制整備事業の取組<br>矢巾町福祉課　畠山　健二郎　氏<br>【グループワーク】 |

⑮令和３年度市町村社会福祉協議会部会総会

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和４年３月 15 日　ふれあいランド岩手 |
| 出　席　者 | 会長・事務局長 |
| 内　　容 | 監事の選任、令和３年度補正予算、令和４年度事業計画・予算について |

⑯新型コロナウイルス感染症等に係る会議

矢巾町新型コロナウイルス感染症対策本部会議

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和3年4月6日、10月4日、令和4年1月7日、1月11日、1月17日、1月24日、2月21日、3月15日<br>庁議室 |
| 出　席　者 | 事務局長 |

矢巾町新型インフルエンザ等対策本部会議

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和3年5月31日、8月11日、8月13日、8月20日、8月23日<br>庁議室 |
| 出　席　者 | 事務局長 |

## ２　地域福祉活動

住民の福祉ニーズを的確に把握するため、民生児童委員協議会定例会やケアマネ・サービス事業所合同連絡会等関係機関と連携し、福祉問題の把握に努め、身近な情報を発信した。また、町内社会福祉法人等が協働して地域における公益的な取組みを行う「やはば生活支援ネットワーク事業推進協議会」やボランティア、福祉団体など地域住民とのネットワークを強化し、住民だれもが地域の中で安心して暮らせるよう、地域福祉活動を推進した。

### （１）広報活動

①広報紙「やはばのふくし」の発行

| | |
|---|---|
| 第140号 | 令和3年4月1日発行 |
| 第141号 | 令和3年6月1日発行 |
| 第142号 | 令和3年10月1日発行 |
| 第143号 | 令和4年2月1日発行 |

②ホームページによる情報発信

③やはラヂ！による情報発信

④パンフレット【矢巾町社会福祉協議会（しゃきょう）の福祉のサービス（保存版）】作成・全戸配布

### （２）地域福祉ネットワーク活動

①やはば生活支援ネットワーク事業

日常生活又は社会生活上の支援を必要とする方を支援するため、町内の 8 社会福祉法人、1 医療法人が、地域における公益的な取組を協働で実施した。令和3年度は、新たに中間的就労事業に取り組んだ。

【ネットワーク会員】

社会福祉法人敬愛会、社会福祉法人新生会、社会福祉法人爽生会
社会福祉法人睦喜会、社会福祉法人矢巾親和会、社会福祉法人土淵朗親会
社会福祉法人いちご会（令和３年度新規）、社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会
医療法人社団帰厚堂

【内　容】

○日常生活支援（おつかいサービス）

町内の高齢者、障がい者等の日常生活必需品や食料品の買い物のための送迎サービスを実施した。令和３年９月、令和４年２月、３月は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止とした。

・年 18 回　・利用登録者数　23 名（前年度比１名増）
　　・利用者数　延べ 140 名(前年比 33 名減)

○生活困窮者支援

日常生活上の課題や就労、経済的な課題を抱え、生活を維持することができなくなる恐れのある方への生活支援事業を行なった。

・支援件数　　４件
・支援総額　　144,523 円（光熱水費、転居費用、食料費、燃料費等）

○ゴミ出し支援

おつかいサービス利用者のゴミ出し支援については、令和３年度の実績なし

○中間的就労体験事業　　（岩手県県央圏域中間的就労訓練モデル事業）

ひきこもりの方や長期離職者など様々な「生きにくさ」を抱える人たちが、自分らしく社会参加するため、中間的就労の場を提供し支援を行った（令和４年１月～）。

１法人　対象者２名　延べ体験回数　32 回
主な作業内容　　雪かき、送迎車の清掃など

②住民参加による地域福祉活動

地域住民が互いに支え合う「日常生活たすけあい隊」、地域の居場所「こびりっこサロン」「えんじょいサロン」「コミュニティ食堂（ここかむ食堂）」の開催など、住民が主体的に活動できる環境づくりの支援を行い、住民と共に地域福祉活動に取り組んだ。また、住民に対する学習、地域福祉活動への参加促進等に関する取組みとして「日常生活たすけあい隊・こびりっこサロン合同研修会」を計画したが、コロナの感染状況により中止とした。

ア　日常生活たすけあい隊事業

【日常生活たすけあい隊総数　116 名】（前年度 128 名）
10 単位老人クラブ 92 名、傾聴ボランティア 15 名
ふれあい弁当ボランティア 17 名、声の広報ボランティア６名
【ありがっと賞交付数】66 枚（前年度末 79 枚）

イ　こびりっこサロン事業（やはばおたっしゃサロン事業）
ウ　誰もが参加できる集いの場「えんじょいサロン」
エ　コミュニティ食堂（ここかむ食堂）の開催
昼ここかむ食堂（毎月第３日曜日）

| | |
|---|---|
| 開催日 | 毎月第３日曜日 |
| 開催場所 | 新田自治公民館 |
| 延べ参加人数 | 母子寡婦福祉協会会員 74 名、親 97 名、子ども 104 名<br>一般参加９名、ボランティア 22 名 |

夜ここかむ食堂（令和３年度新規取組み）

| | |
|---|---|
| 開催日 | 毎月第２・４金曜日 |
| 開催場所 | 新田自治公民館 |
| 延べ参加人数 | 母子寡婦福祉協会会員 114 名、親 215 名、子ども 184 名<br>一般参加 11 名、ボランティア 34 名 |

児童館ここかむ食堂　※コロナの影響により６月以降の開催は中止

| | |
|---|---|
| 開催日 | 令和３年５月８日 |
| 開催場所 | 徳田児童館 |
| 参加人数 | 母子寡婦福祉協会会員３名、子ども６名、一般参加２名 |

オ　住民に対する学習、地域福祉活動へのきっかけづくりや参加促進等に関する取組み

| 日　　付 | 内　　容 | 場　　所 |
|---|---|---|
| 令和３年 10 月 20 日 | 広宮沢 2 区コミュニティワークショップ | 広宮沢玉生会館 |
| 令和３年 10 月 24 日 | 東徳田 1 区コミュニティワークショップ | 三谷公民館 |
| 令和３年 11 月 19 日 | 高田 1 区コミュニティワークショップ | 高田コミュニティセンター |

③地域生活課題を包括的に受け止めるための関係機関とのネットワーク強化
　多様化する福祉ニーズを包括的に受けとめ、解決につなぐことができるよう、関係機関とのネットワークを強化した。
ア　矢巾町支援調整会議　　年 12 回（書面開催３回）
イ　重層的支援体制整備事業関係会議
　・矢巾町個別支援会議　　年７回（リモート３回）
　・矢巾町重層的支援体制整備事業推進会議　　11 月 26 日
ウ　生活困窮者自立支援事業関係者会議　　４月 26 日
エ　矢巾町生活支援協議会　　11 月 25 日
　　令和４年３月 28 日（書面開催）
オ　地域ケア推進会議　　令和４年１月 20 日
カ　ふくし連絡調整会議　　年４回

### （３）第４０回矢巾町ふれあい広場～一人ひとりの光、輝いて～バリアフリー映画会

コロナの影響で昨年度は中止とした「矢巾町ふれあい広場」をバリアフリー映画会として開催した。感染防止対策を徹底し、字幕スーパー、音声ガイド、手話通訳、音量や会場内照明の調整、母子室利用など、障がいのある方や高齢の方、また子育て世代の方だれもが楽しめる内容とし、障がい等への理解を深めることができた。

期　日　　令和３年 11 月 13 日
場　所　　田園ホール
内　容　　タイトル「星に語りて～Starry Sky～」
　　岩手県陸前高田市、福島県南相馬市の障がい者共同作業所を舞台とした、東日本大震災当時の状況や支援者の活動を描いた映画（きょうされん制作）
参加者　　約 150 名

### （４）社会福祉協議会会長表彰式

新型コロナウイルス感染症の影響により、矢巾町健康福祉まつりは中止となったため、福祉活動に功績のあった個人 27 名、また『こんなやさしい町が好き「こども川柳」』の入賞者８名に対して、社会福祉協議会会長表彰を行った。

期 日　　令和３年 12 月４日
場 所　　矢巾町公民館

## ３ ボランティア活動関係

### （１）ボランティアの養成に関すること

①ジュニアボランティア探検隊

社会福祉・ボランティア活動の重要性について体験を通じて理解を深める「ジュニアボランティア探検隊」の活動は、新型コロナウイルス感染症対策のため、内容を縮小して開催した。

第１回ジュニアボランティア探検隊

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和３年 10 月 18 日　やはパーク |
| 人　　数 | 小学生（4～6 年生）6 名 |
| 内　　容 | ①フードバンク活動と食品ロスの問題について<br>講師　特定非営利活動法人フードバンク岩手　事務局長　阿部知幸　氏<br>②第二新生園（障がい者施設）について<br>第二新生園職員の協力をいただき、障がい者施設や障がいへの理解を図った。<br>（施設の説明、施設で取り組んでいる缶バッジ作りの体験） |

第２回ジュニアボランティア探検隊

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和３年 11 月 13 日　田園ホール |
| 人　　数 | 小学生（4～6 年生）4 名 |
| 内　　容 | ふれあい広場～バリアフリー映画会～<br>開会宣言、鑑賞マナーの発表、赤い羽根共同募金活動（募金額 5,054 円） |

②小学生福祉講座　　キャップハンディ体験

日常生活で障がい者や高齢者のためのボランティア活動を身近に感じることができるよう、各小学校と協力し福祉講座を実施した。

| | |
|---|---|
| 期日・場所 | 令和３年９月７日　　煙山小学校４年生<br>令和３年 11 月 24 日　徳田小学校４年生 |
| 内　　容 | 視聴覚障がい者や車イス使用の方々に対する理解を深め、キャップハンディ体験をした。<br>・白杖体験と視覚障がいについて<br>針灸師　村上　直人　氏<br>・車イス体験　　社会福祉協議会 |

**（２）ボランティアセンターの運営**

ボランティアに関する相談、登録、連絡調整、派遣を行った。ボランティア養成講座修了者を中心に地域での福祉活動、福祉施設へのボランティアを派遣する活動は、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、受け入れ先の福祉施設や小中学校等との協議を行い、施設訪問については活動を休止した。そのような中、声の広報ボランティア、ふれあい弁当ボランティア、ここかむ食堂ボランティアは感染予防対策を徹底した上で活動を継続し、地域の在宅福祉を支えることができた。

①ボランティア登録の状況

| | | |
|---|---|---|
| ボランティア登録数 | 団体 | ７団体<br>（226 名） |
| | 個人 | ７名 |
| | 合計 | 233 名 |

②主なボランティア活動（社会福祉協議会関連）

ア　声の広報ボランティア

毎月 1 回、町広報紙等を朗読し、録音したテープ、CD を視覚障がい者等に配布した。令和３年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、当番制による活動を行った。

| 利用登録数 | ３名 | |
|---|---|---|
| 朗読ボランティア（登録７名） | 12 回 | 延べ 47 名 |
| 配達ボランティア（登録３名） | 12 回 | 延べ 36 名 |

イ　ふれあい弁当ボランティア

一人暮らし高齢者等に対し、手作りの弁当を作り配達をした。

| 利用登録数 | 40 名 | |
|---|---|---|
| 調理ボランティア（登録９名） | 22 回 | 延べ 169 名 |
| 配達ボランティア（登録８名） | 22 回 | 延べ 167 名 |

ウ ここかむ食堂（コミュニティ食堂）ボランティア　　場所　新田自治公民館

| | | |
|---|---|---|
| 昼ここかむ食堂 | 12 回 | 母子寡婦福祉協会ボランティア延べ 74 名<br>一般ボランティア延べ 22 名 |
| 夜ここかむ食堂 | 20 回 | 母子寡婦福祉協会ボランティア延べ 114 名<br>一般ボランティア 34 名 |

エ 施設訪問ボランティア

新型コロナ感染症の影響で、施設訪問によるボランティア活動はできなかったが、矢巾町さくらの船の会は、施設や病院の感染症対策に活用してもらうため、雑巾や布巾などを贈呈した。また傾聴ボランティアやはば「柚子の会」は定例会において傾聴活動についての研修や事例研究などを行い、今後の活動へとつなげることができた。

オ　おでかけ送迎サービスボランティア

高齢や障がいなどの理由で移動に車いすが必要な方を対象に、車いすごと乗れる車両を使用してボランティアによる送迎サービスを行った。

| 利用登録数 | 7 名 | |
|---|---|---|
| 送迎ボランティア<br>（登録 7 名） | 27 回 | 延べ　27 名 |
| 利用人数 | 27 回 | 延べ　27 名 |

③災害ボランティアセンター運営に係る協定締結

災害時における矢巾町災害ボランティアセンターの設置、運営等に関する協定を締結し、ボランティア活動の円滑な運営のための役割や協力事項等を定めた。

・矢巾町災害ボランティアセンターの設置・運営に係る協定締結

令和 3 年 11 月 17 日　　矢巾町

・災害時等の連携に関する協定締結

令和 3 年 12 月 15 日　　一般社団法人盛岡青年会議所

## 4 高齢者福祉関係

町内における福祉活動やボランティアの充実により、町民誰もが公平に福祉サービスが受けられること、誰もが安心して暮らすことができる地域を創造すること、誰もが福祉の担い手となって住みよい地域が創り出されることを目標として、在宅福祉を支えるボランティアの育成と住民ネットワークの連携強化に取り組んだ。

### （1）おげんき見守りシステム事業

一人暮らし高齢者が一日 1 回指定の電話番号に電話をかけることで、社会福祉協議会や登録した家族にメールで情報が伝わるシステムで、「具合がわるい」と発信があった場合や夕方まで発信がない場合は、地域の民生委員、近所の協力者、社協職員が電話や直接訪問して安否を確認した。

【利用者数】　4 名

### （２）ひとり暮らし高齢者等給食サービス事業（ふれあい弁当）

一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対し、ボランティアによる給食サービス事業に取り組んだ。

| | |
|---|---|
| サービス利用登録者 | 40 名 |
| サービス提供回数 | 22 回 |
| 提供食数 | 677 食 |
| 調理ボランティア数 | 延べ 169 名 |
| 配達ボランティア数 | 延べ 167 名 |

### （３）生きいき教室事業

高齢者の社会参加意欲を高め、健康で生きがいのある生活を目指し事業を展開した。感染症対策を徹底し、いきいきウォーキング、シニアヨガ体験会を開催した。

【生きいき教室の実施状況】

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 60 歳以上の高齢者 |
| 事 業 内 容 | ・いきいきウォーキング<br>期　日　令和 3 年 7 月 2 日 32 名　　場所　城内山<br>令和 3 年 11 月 2 日　37 名　場所　城内山<br>・シニアヨガ体験会　　延べ 17 名<br>期　日　令和 4 年 3 月 14 日　8 名<br>3 月 22 日　8 名<br>講　師　地域おこし協力隊 新田真未氏 |

### （４）一人暮らし高齢者の集い（ゆり花の集い）

一人暮らし高齢者の生きがいを高め、バランスの取れた食事、仲間づくり、孤立化を防ぐことを目的として実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、8 月、9 月は中止とし、電話による状況確認等を行った。令和 3 年度もボランティアによる昼食提供は行わず、業者による弁当を提供した。

①ゆり花の集い開催状況

| | |
|---|---|
| 開　催　回　数 | 年間 8 回 |
| 利　用　人　数 | 延べ 50 人 |
| 会　　場 | おでんせ広場 |
| 事　業　内　容 | 血圧測定、食事、ゲーム、ニュースポーツ、季節の行事、談話等 |

### （５）おつかいサービス事業

一人暮らし高齢者等、買い物が困難な方の日常生活を支援するため、スーパーへ送迎

するおつかいサービス事業を展開した。やはば生活支援ネットワーク事業推進協議会による実施で町内の８社会福祉法人、１医療法人がサービスの提供を行った。

### （６）ねたきり高齢者等理容サービス事業

在宅でねたきりの高齢者の衛生と心の健康を図るとともに、介護者の負担を軽減するため、町内理容店の協力を得て、理容店の訪問による理容サービスを実施した。

【ねたきり高齢者等利用サービス事業実施状況】

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 在宅でねたきりの高齢者 |
| 協　　力 | 町内理容店 |
| 利　用　者 | 5 名 |
| 利 用 回 数 | 延べ 11 回 |

### （７）高齢者健康づくり・生きがいづくり事業

高齢者の社会参加を応援し、健康づくり・生きがいづくりをめざして、老人クラブ連合会と協力し事業を展開した。

①夏の花いっぱい活動
　期　日　令和 3 年 6 月 27 日
　場　所　不動盛岡線沿線
　参加者　67 名

②いきいきウォーキング
　期　日　令和 3 年 7 月 2 日　　場所　城内山　　32 名
　期　日　令和 3 年 11 月 2 日　　場所　城内山　　37 名

③グラウンド・ゴルフ大会
　期　日　令和 3 年 9 月 14 日
　場　所　ラ・フランス温泉館
　参加者　17 名

④赤い羽根チャリティーゲートボール大会
　期　日　令和 3 年 9 月 28 日
　場　所　さわやかハウス
　参加者　24 名

⑤ニュースポーツ体験会
　期　日　令和 3 年 10 月 12 日
　場　所　さわやかハウス
　参加者　17 名

### （８）おでかけ送迎サービス事業

高齢や障がいなどの理由で移動に車いすが必要な方を対象に、車いすごと乗れる車

両を使用してボランティアによる送迎サービスを行った。

### （９）令和３年度金婚式

永年にわたり地域社会の発展に尽くされ、また家庭の繁栄に努めてこられた結婚 50 周年をむかえたご夫婦 9 組に対して、お祝い膳や記念品、写真チケットをお贈りした(新型コロナウイルス感染症対策のため、祝賀会は開催せず)。

## ５ 障がい者福祉活動関係

### （１）声の広報発行事業

ボランティアの協力を得て広報やはばを中心に毎月声の広報を発行した。

利用者　7 名

### （２）身体障がい者健康づくりに関すること

24 時間テレビチャリティ―委員会「紫波町・矢巾町・石鳥谷町三町広域連携、体重測定からはじまる健康づくりと暮らしやすい町づくり」により、車いす用体重計・発電機の贈呈を受け、役場ロビーに車いす用体重計を設置した。

【贈呈式】

期　日　　令和 3 年 7 月 6 日

場　所　　紫波町総合福祉センター

出席者　　会長、事務局長、事務局次長

### （３）おでかけ送迎サービス事業

高齢や障がいなどの理由で移動に車いすが必要な方を対象に、車いすごと乗れる車両を使用してボランティアによる送迎サービスを行った。

### （４）障がい者社会参加推進事業

障がい者の社会参加を応援し、健康づくり・生きがいづくりをめざして、身体障害者協議会と協力し事業を展開した。

①矢巾町ふれあい広場～バリアフリー映画会～への参加　　2 人

②矢巾町身体障害者協議会役員研修会

期　日　令和 3 年 12 月 10 日

場　所　ラ・フランス温泉館

内　容　　ニュースポーツ大会

参加者　11 名

③東京 2020 パラリンピック岩手県集火、出立式

期　日　令和 3 年 8 月 16 日

場　所　イオンモール盛岡

参加者　身体障害者協議会会長

## ６ 児童・青少年福祉活動関係

### （１）福祉教育の推進

保育園、こども園、小・中学校、高等学校の協力を得て、社会福祉やボランティア活動への理解を深め、地域社会の連帯意識と奉仕の心を育成するため、社会福祉協力校（おもいやりの心育成事業）活動に取り組んだ。世代交流事業、ボランティア活動、募金活動など、幅広い世代とふれあう活動となった。「こんなやさしい町がすき『子ども川柳』」では、409 名 667 句の川柳が寄せられ、入賞者は社会福祉協議会会長表彰式にて表彰した。

①おもいやりの心育成事業福祉協力校

| | |
|---|---|
| 保育園、こども園 | ８園 |
| 小学校 | ４校 |
| 中学校 | ２校 |
| 高等学校 | １校 |

### （２）ひとり親世帯を中心とした子育て世帯対象の事業

矢巾町母子寡婦福祉協会と協力し、ひとり親世帯等が孤立することがないよう活動を展開した。

①親と子のつどい

期　日　令和３年 12 月 19 日

場　所　いわて子どもの森

参加者　６世帯、母子寡婦福祉協会４名、ボランティア２名

②子どもの居場所「ここかむ食堂」（コミュニティ食堂）

矢巾町母子寡婦福祉協会が中心となり、地域の賛同者やボランティア、企業等の協力を得ながら、ひとり親世帯に限ることなく、地域の居場所として開催した。感染拡大防止のため、会食形式は自粛としたが、子育て世帯への弁当テイクアウトとして活動を継続し、孤立化を防ぐことができた。

③フードパントリー事業

新型コロナウイルス感染症の影響などにより、生活に困りごとのある子育て世帯をを対象とし無料で食料品や日用品を配布した。

期　日　令和３年 12 月 18 日　場所　矢巾町公民館　　10 世帯

　　令和４年３月 20 日　　場所　新田自治公民館　12 世帯

### （３）更生保護活動

犯罪をなくし、明るく住みよい社会をつくるため、矢巾町保護司会、矢巾町更生保護女性の会等と協力し活動を展開した。新型コロナウイルス感染症対策のため、交流

事業や矯正施設訪問は実施できなかったが、朝のあいさつ運動や学校訪問の実施により、学校との連携を図ることができた。矢巾町更生保護女性の会は、エキナカ産直の開催による売上金を活用し、コロナ禍で生活に困窮している子育て世帯への食料支援を行い、地域の子どもたちの健やかな成長と明るい未来を支える立場として、新たな活動を推進した。

①第 71 回社会を明るくする運動

期　日　令和 3 年 6 月 30 日　JR 矢幅駅

参加者　保護司 3 名　矢巾町更生保護女性の会 7 名

内　容　駅ホームに啓発短冊付風鈴の飾りつけ、ティッシュ・ミニハンカチ配布

②朝のあいさつ運動

令和 3 年 7 月 16 日、9 月 24 日

③学校訪問

令和 3 年 6 月 28 日、6 月 30 日、7 月 2 日

④少年非行防止等パトロール(矢巾っこすくすくネットワーク)

令和 3 年 12 月 20 日、令和 4 年 1 月 11 日、1 月 18 日、3 月 18 日、3 月 22 日

⑤非行防止教室

期　日　令和 3 年 7 月 9 日

場　所　徳田児童館

内　容　更生保護女性の会、紫波警察署少年補導職員による非行防止教室

### （4）地域子育て支援拠点事業（町受託事業）

乳幼児の健全な育成と共に、安心して子育てができる環境を整備するため、子育て支援拠点事業「うさちゃんのへや」を運営した。新型コロナウイルス感染症対策のため、利用は予約制とし、感染対策を徹底して実施した。

・子育て支援拠点事業「うさちゃんのへや」

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 乳幼児と親の居場所、仲間作り支援 |
| 開催場所 | 不動児童館 |
| 開所時間 | 火、木、金曜日 10:00～15:00 |
| 開所日数 | 年間 148 日 |
| 利用状況 | 年間大人 198 名、子ども 219 名 |
| 事業内容 | ・運動遊び、リズム遊び、創作遊び、親子ふれあい遊び、季節の行事　等<br>・子育て等に関する相談件数　　11 件 |

## 7 相談・援護活動関係

住民の抱える生活課題は、複雑化・複合化していることから、各種分野とのネットワークにより、自立した生活を送ることができるよう支援を行った。またひきこもり等社会的に孤立している人が社会とのつながりを持つことができるよう、居場所づくりや支援メニ

ューへのコーディネートを行った。

矢巾町が実施する矢巾町重層的支援体制整備事業の３つの柱である包括的相談支援事業、参加支援事業、地域づくり事業を共に展開し、社会福祉協議会の機能を十分に発揮して　住民のあらゆる困り事に対応した。

**（１）重層的支援体制整備事業**

①包括的相談支援事業

「矢巾町つなぐシート相談受付表」を活用し、多機関と連携し、様々な理由で生活に困り事のある方の相談、必要な支援を行なった。

【生活困窮に関する事業】

**生活福祉資金貸付事業(岩手県社会福祉協議会)**

他の貸付制度を利用できない低所得者世帯、障がい者世帯、高齢者世帯へ、資金の貸付と必要な相談事業を行なった。また、新型コロナウイルス感染症の影響により休業や減収、失業した世帯を対象として特例貸付を行った。

貸付相談員　　１名配置

相談件数　　延べ　244 件

【令和３年度貸付け状況】

| 資金の種類 | 件数 | 決定金額 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 総合支援資金 | 0 件 | 0 | |
| 福祉資金　福祉費 | 1 件 | 500,000 | 車購入（障がい者） |
| 福祉資金　緊急小口資金 | 1 件 | 96,000 | 車検代（障がい者） |
| 教育支援資金　　教育支援費 | 1 件 | 2,164,000 円 | 寮費（高校３年間） |
| 教育支援資金　　就学支度費 | 3 件 | 1,500,000 円 | 入学金、制服代等 |
| コロナウイルス感染症に係る特例貸付（緊急小口） | 47 件 | 8,850,000 円 | |
| コロナウイルス感染症に係る特例貸付（総合支援資金） | 30 件 | 14,750,000 円 | |
| 合　計 | 83 件 | 27,860,000 円 | |

**たすけあい金庫貸付事業**

緊急かつ一時的に生命維持が困難な状況にある方に対し、必要な貸付を行い、生活維持と安定を図った。また長期間にわたり償還が滞っている方へ督促を行った。

たすけあい金庫令和３年度の状況

| | | |
|---|---|---|
| 貸付け件数 | ５件 | 335,000 円 |
| 償還件数 | 24 件 | 175,230 円 |

貸付け残額（令和４年３月 31 日現在）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 貸付け総件数と残額 | | 27 件 | 1,269,910 円 |

フードドライブ＆サニタリードライブ事業

「特定非営利活動法人フードバンク岩手」と連携し、町民から寄付の協力をいただき、フードドライブに取り組んだ。同時に、様々な事情でサニタリー用品（生理用品など）の購入が難しい方々へ無料で配布するサニタリードライブに取り組んだ。通年実施としたが、７月、12 月は強化月間として取り組んだ。

食料品は、フードバンク岩手を通じて必要とされる世帯へ届けられた。また、サニタリー用品については、延べ７４名に提供することができた。

フードパントリー事業

新型コロナウイルス感染症の影響等により、生活に困りごとのある子育て世帯、一人暮らしの学生に対し、無料で食料を配布した。提供する食料は、町内の個人や団体からの寄付、岩手県共同募金会の助成により実施した。

第１回　令和３年 12 月 18 日　　矢巾町公民館　　10 世帯
第２回　令和４年 ３月 20 日　　新田自治公民館　12 世帯

生活困窮者への生活支援給付（やはば生活支援ネットワーク事業）

日常生活上の課題や就労、経済的な課題を抱え、生活を維持することができなくなる恐れのある方への生活支援事業を行った。

※水光熱費、転居費用、食料費、燃料費等

暮らしの専門相談所の運営

人権擁護委員、弁護士、行政相談委員、司法書士、消費生活アドバイザー、民生委員など、住民の相談内容に応じて専門性を生かした相談事業を行った。

| 相談種別 | 開催日 | 開催時間 | 相談員 | 年間相談件数 |
|---|---|---|---|---|
| 人権相談 | 第１金曜日 | 13：00～16：00 | 人権擁護委員 | 2 |
| 法律相談 | 第２金曜日 | 10：00～15：00 | 弁護士 | 70 |
| 行政相談 | 第３金曜日 | 9：00～12：00 | 行政相談委員 | 2 |
| 登記・相続 | 6/26・10/27 | 13：00～16：00 | 司法書士 | 3 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 消費生活 | 7/31・11/24 | 13：00～16：00 | 消費生活アドバイザー | 0 |
| 心配ごと | 年 4 回 | 13：00～16：00 | 民生委員 | 0 |

②参加支援事業

ひきこもり等の「狭間のニーズ」を抱えた方の居場所づくりやニーズへのマッチングを行った。

・フリースペース従事　コミュニティソーシャルワーカー 2 名　　年 7 回

・中間的就労体験事業　　（岩手県県央圏域中間的就労訓練モデル事業）

ひきこもりの方や長期離職者など様々な「生きにくさ」を抱える人たちが、自分らしく社会参加するため、「やはば生活支援ネットワーク事業推進協議会（法人ネットワーク）」との連携により中間的就労の場を提供し支援を行った（令和 4 年 1 月～）。

対象者　　2 名

受け入れた社会福祉法人　　社会福祉法人いちご会

延べ体験回数　　32 回

主な作業内容　　雪かき、送迎車の清掃など

③地域づくり事業

住民相互のふれあいや社会参加を通じて、支え合う地域づくりに取り組んだ。

・こびりっこサロン事業

・地域子育て支援拠点事業うさちゃんのへや(児童館型)

・日常生活たすけあい隊事業

・コミュニティ食堂（ここかむ食堂）

**（２）権利擁護制度による生活支援**

①日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などが、自立した社会生活を送ることができるよう福祉サービス利用の援助を行うことにより、その権利擁護に資することを目的として、岩手県社会福祉協議会が実施主体となり、基幹社協である盛岡市社会福祉協議会と協力して事業を行った。事業の具体的なサービスにあたり、2 名の支援員を配置して支援を行った。また広報誌「やはばのふくし」にて、普及啓発に努めた。

・利用者　9 名

②成年後見制度の利用促進に関すること

盛岡広域地域連携ネットワーク連絡協議会、矢巾町成年後見人制度促進審議会等関係機関との連携により、制度の利用促進について情報共有に努めた。

**（３）地域歳末たすけあい運動（たんぽぽ募金）による生活支援**

町民の皆様から寄せられた善意の募金を、民生児童委員の協力のもと、支援を必要と

する方々に届け、安心して新しい年を迎えることができるよう支援を行った。

| | | |
|---|---|---|
| ①高齢者世帯 | 69 世帯 | 414,000 円 |
| ②障がい者世帯 | 106 世帯 | 636,000 円 |
| ③ひとり親世帯 | 72 世帯 | 732,000 円 |
| ④生活困窮世帯 | 5 世帯 | 60,000 円 |
| ⑤その他 | 8 世帯 | 48,000 円 |
| ⑥歳末福祉事業 | 4 団体 | 40,000 円 |
| | 264 件 | 1,930,000 円 |